

さつま開教
150年記念

かくれ念仏と開教の歩み



浄土真宗本願寺派 鹿児島教区・鹿児島別院

2026年は
さつま開教
150年

高祖大聖人御洪恩ヲ感戴シ下モ御遺教ヲ
御吹擧ノ御恩ヲ念シ隨テ四輩ノ辛苦ヲモ
察シタマフコトヲ名フ此誦永ク相續シ一念佛
命ノ本源ヲアヤメテ如實相應シテ
往生ノ素懐ヲ遂ケタマフヘキ夏ヲ希フ所ナリ
如ク安心領納ノ上ハ佛祖廣大

それは大切なもの
かもしれません

真宗禁制・さつま開教 にかかる 情報共有、資料等の保存に 向けた情報提供について

2026(令和8)年に迎える「さつま開教150年」に向けて、「かくれ念仏顕彰委員会」では「真宗禁制・さつま開教」にかかる資料の保存・整理・情報の発信に向けた取り組みを進めてまいります。

現在、講や寺院の継承者問題、家屋や寺院建造物の修築等による除却解体により、講や寺院の継承者問題、家屋や寺院建造物の修築等による除却解体により、講や寺院のご本尊・仏具・法宝物等の貴重な資料の散逸が危惧されています。

また長年の風雨の中、かくれ念仏洞の崩落等、維持もいよいよ困難な時期となりました。そうした中で、篤信のご門徒がご縁の寺院に、明治～昭和期の貴重な聖典・記念冊子・法要記念品等の資料をご持参される事例も聞き及んでいます。

そこで、「かくれ念仏顕彰委員会」といたしましても、情報共有を行い、貴重な資料等を後の世に残すため、デジタルデータ化などによる資料の保存・整理・情報の発信を行っていきたく存じます。皆さまの情報提供を、お待ちしております。

かくれ念仏顕彰委員会

お問い合わせ

西本願寺鹿児島別院

〒892-0842 鹿児島市東千石町21-38

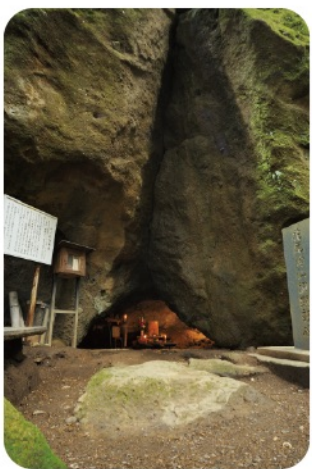
☎099-222-0051



かくれ念仏と開教の歩み

禁止された浄土真宗の教え

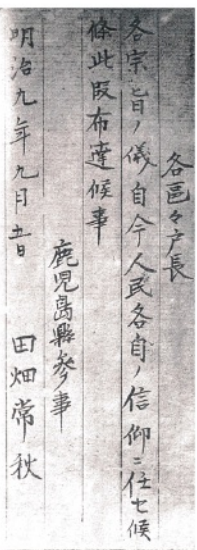
親鸞聖人しんらんによって開かれた浄土真宗の教えは、本願寺第8代宗主・蓮如上人れんにょの時代に全国に広まりました。しかし、鹿児島では、1597（慶長2）年に浄土真宗を禁じる掟書おきてがきが出されてから約300年もの長きにわたり浄土真宗の信仰が禁じられました。それは、浄土真宗の教えがすべてののちは阿弥陀如来の前には等しく尊いという教えであり、為政者には容認し難いものであったからです。事実、加賀（石川県南部）の一向一揆いっけいのように、民衆が一国の支配体



↑花尾念仏洞（鹿児島市）

待ち望んでいた「開教」へ

江戸の世が終わり、明治新政府へと体制が移り変わり、廃藩置県はいはんちけんによって行政区域も変更されました。しかし、鹿児島県では依然として浄土真宗は禁止されていました。そのような中、解禁への大きな転機となったのは、明治9年の鹿児島県と宮崎県の合併でありました。これにより同じ行政区において、一方は許され、一方は禁止されているという状況が発生しました。そして、明治9年9月5日に「信教の自由令」が發布され、ついに鹿児島の人々も公に浄土真宗を信仰することが許されたのです。鹿児島別院ではこの日を記念し、毎年「さつま開教記念法要」をお勤めしています。



←県参事より各地域戸長へ發布された信教の自由令

制を覆すほどの抵抗と団結を引き起こした例もあり、領民の心を統制し封建体制を確立せねばならない当時の薩摩藩にとっては、その教えは脅威となるものでした。

命を賭した念仏の相続を...

しかし、どれほど厳しい禁制であっても、人々の信仰を奪うことはできませんでした。かくれ門徒の人々は「講」と呼ばれる集まりを組織し、京都の西本願寺と密かに連絡を取り、教えを学び護り続けました。夜更けに人目を忍んで集まり経を唱えたり、洞窟のような隠れた場所や船上で法座を開いたり、さまざまな工夫を凝らして念仏を称え続けたのです。

浄土真宗の寺院はなく、真宗僧侶もいない状況の中で、人々は信仰の灯を護り、大切な教えを語り継いでいったのです。これが、後に「かくれ念仏」と呼ばれる信仰形態です。

当時、解禁を待ち望んでいた京都の西本願寺と鹿児島



↑多くの方々が参拝する『さつま開教記念法要』

年10月21日には、鹿児島別院が建立され、同13年には県内各地に84カ所の説教所が開設されました。現在鹿児島県には、192カ所の西本願寺の寺院があります。これもひとえに厳しい禁制の中にも、み教えを護り相続されてきた先達念仏者のおかげといえましょう。

時代は移り変わるとしても

真宗禁制の歴史は「かくれ念仏」や「さつまの法難」として、今も鹿児島各地で

信仰が発覚すればご本尊や経典は没収され改宗を強要されます。弾圧が特に厳しい時期には、命を賭した念仏相続でありました。

涙石、苦しみの涙染みこんで

鹿児島別院には、苦難の歴史を今に伝える「涙石」があります。この石は、現在の鹿児島市犬迫町あたりで、浄土真宗を密かに信仰していた「講」の世話役が役人に捕らえられ、役人による石責めの尋問に使われた石と伝えられます。苦しみのあまり流した涙が染みこんだことから「涙石」と呼ばれるようになりました。



↑涙石（鹿児島別院・境内）

語り継がれています。時代は移り変わるとしても、命がけで信仰を護った念仏者のご苦勞や、禁制下および開教後に布教に尽力くださった開教僧方の功績は、次代に継承されなければなりません。

令和8年、「信教の自由令」が發布されるから150年の節目を迎えます。鹿児島教区・鹿児島別院では、このたびの「開教150年」を機縁として、「念仏の新たな歩み」を進めて参ります。先人のご苦勞を偲び、命がけで護り伝えてこられた浄土真宗のみ教えの輪を、いま一度私たち一人ひとりが喜び、大切にしていく尊きご縁としてお迎えいたしましょう。



浄土真宗本願寺派 150年 記念法要

光はここに 光はここから
～いのち礼讃 そして念仏の新たな歩みへ～

期日：2026年10月26～28日
場所：本願寺鹿児島別院・本堂
主催：浄土真宗本願寺派
鹿児島教区・鹿児島別院

かくれ念仏について



二次元バーコードよりご覧ください

